

長雨に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和3年8月11日に仙台管区气象台から発表された「東北地方週間天気予報」では、8月12日から8月18日にかけて曇りや雨の日が多く、13日から15日頃にかけては前線の活動の程度等によっては大雨となるおそれがあります。

今後の気象情報、注意報等に留意し、農作物の管理に十分注意しましょう。

【共通事項】

- (1) 曇雨天が続くと農作物に病害が発生しやすくなることから、今後の天候の推移に十分注意するとともに、ほ場をよく観察し、適期防除に努めましょう。
- (2) 農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、散布にあたっては飛散防止対策を講じてください。

1 水 稲

- (1) 出穂期に曇雨天が続くと、いもち病が発生するおそれがあります。ほ場をよく観察し、適切な防除を実施しましょう。
- (2) 出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かん水とし、根の活力を維持することで登熟の向上を図りましょう。
- (3) 斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。薬剤防除を徹底しましょう。

2 大豆・そば

- (1) 湿害を防ぎ根の活力を維持するため、降雨によりほ場内に停滞水が発生しないよう明きよ等による排水対策を徹底しましょう。

3 野 菜

- (1) ほ場の管理
 - ア 曇雨天が続くと生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、追肥は1回当たりの窒素分量を少なくし、窒素過多にならないようにしましょう。
 - イ 降雨が続く場合は、停滞水が発生しないよう明きよを掘るなどして排水対策を徹底しましょう。
 - ウ 黄化葉や側枝の新葉を覆っている葉、病葉は随時摘除するとともに、着果負担が大きい果菜類では草勢に応じて摘果しましょう。
 - エ ハウスでは換気を良好にし、適正な温湿度管理に努めるとともに、加温機がある施設では、曇雨天時に送風運転を行い、葉の濡れを防ぎましょう。
- (2) 主な品目の技術対策
 - ア きゅうり
べと病、つる枯病、炭そ病等の発生が多くなるので防除に努めましょう。また、不良果を摘果し、草勢維持を図りましょう。
 - イ トマト
追肥は、窒素過多にならないように施用し、草勢維持に努めましょう。また、灰色かび病や葉かび病が発生しやすいので、ハウス内の換気を図るとともに、薬剤散布を行いましょう。標高が高い等冷気の入りやすいところでは、疫病の発生に注意しましょう。

- ウ さやいんげん
排水対策を徹底するとともに、炭そ病等の発生に注意しましょう。
- エ ピーマン
斑点病等の発生に注意しましょう。
- オ ナス
排水対策を徹底し、灰色かび病等の発生に注意しましょう。

4 果 樹

- (1) 樹冠内の日照条件改善
ももやりんごでは枝吊り、支柱立て、夏季せん定により、なしでは新梢の誘引などにより樹冠内部の日当たりを確保し、日照条件を改善しましょう。
- (2) 適正な着果管理
曇りや雨が多くなると、ももの肥大不良・果肉軟化・着色不良、なしの肥大不良・果肉障害（蜜入り症）、りんごの肥大不良等が発生しやすくなります。そのため、樹勢や果実肥大の状況に応じた着果管理を行いましょう。りんごやなしの中晩生品種では修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。
- (3) 果実の着色促進
ももでは収穫7～10日前を目安に反射シート等を設置して、着色促進を図りましょう。また、有袋栽培では、今後の天候が曇天で経過する場合には除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業は計画的に行いましょう。
- (4) 排水対策
園地内に滞水がみられる場合には、明きょ、暗きょを確認し、滞水を速やかに排水しましょう。
- (5) 病虫害防除
曇りや雨が多くなると、病虫害（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるので、発生予察情報等を活用し適切に防除を実施するとともに、定期防除の散布間隔が開かないよう注意しましょう。
また、感染源となる病斑や発病葉、発病果は速やかに適切に処分しましょう。

5 花 き

- (1) ほ場の管理
曇りや雨の日が多くなると茎葉の生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、積極的な施肥は避けましょう。
また、曇雨天時は遮光資材は取り除き、光の確保に努めましょう。さらに、不要な枝葉を取り除き、風通しをよくするとともに農薬の予防散布により病害発生の抑制に努めましょう。
露地花きでは、過湿等によって下葉の黄化や枯れ上がりが発生しやすいため、排水対策を行いましょう。
- (2) 主な品目の技術対策
 - ア トルコギキョウ
ブラスチングが発生しやすくなるため、余分な蕾を早めに取り除きましょう。また、施設内の風通しを良くし、灰色かび病の抑制に努めましょう。
 - イ キク
白さび病等が発生しやすくなるため、予防散布、排水対策を行いましょう。
 - ウ ユリ
露地では葉枯病等が発生しやすくなるため、排水対策や予防散布を行いましょう。
 - エ リンドウ
葉枯病や褐斑病等が発生しやすくなるため、排水対策や予防散布を行いましょう。また、気温が低く経過すると花腐菌核病の発生が早まるため、適切な防除に努めましょう。

6 飼料作物

- (1) 生育停滞、湿害及び刈遅れ等により、収穫量や品質の低下のおそれがあるため、生育状況に応じた適切な肥培管理、排水対策や収穫調製に努めましょう。
- (2) また、牧草等の収穫が遅れる場合には、添加剤の使用等によりサイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>